特1 — 278

本草圖譜

本草圖譜敘

凡動植之化育乎兩間者。不可以千百數。而殊形詭狀。洪纖紛羅。浩如烟海。有翰墨紀載之不能得而曲盡者。於是寄之於繪畫。以發其所不及。

使人一覽了然無遺蘊。是畨之所以不可闕也。故歷世言李草者。自唐李勣宋蘇頌以還。未嘗不為之畨。而迨明李時珍編綱目。則蔚然集諸家之大成。學者奉為準據。第其畨疎謬不足觀。何也。予嘗得綱目原刻而閱之。卷首署曰李建元圖。則其畨固非蘄陽之編。況輾轉摹刻。訛陋互生。終亦失建元之舊。豈不甚可憾也哉。吾友岩崎灌園酷嗜

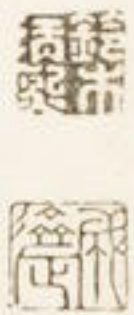
赭鞭之學。又善寫生。所著有本草畜譜若干卷。項者釐草部一類。鋟諸梓版。謁序於予。灌園刻意斯學。殆三十年。平居植藥卉於庭。二千餘種。籬笆綰錯。磁斗相接。灌園日逍遥其間。親加培溉。循覽諦視。以察其根莖花實之形色。句拆榮悴之變態。超然有所得於中。輙援毫寫之。是以精麤詳密。分析毫芒。凡方土產殖之同異。深阻幽崖之殊品。以

至海外絶國賈舶所賣纖悉羅陳不移足而得之几案間其用力可謂勤矣夫畜之與説所以相為用而建元之畜未足以羽翼其説觀者憾焉灌園斯編因綱目之綿蕞而更致參稽灼然如觀火洵足以發揮幽頤而津建後學焉則謂之李氏之功臣孰為不可乎哉予不慧亦嘗留意斯學與灌園相識久矣故弗辭而序之

文政十一年晚秋望日

奉朝請醫官喜多村直撰

鈴木清熙書



本草圖譜序

人之所愛莫愛於生而所惡莫惡於死也使人無憾於疾病死生之際者舍醫何以也醫之為道所係甚重且切而其施治之間非資於藥物則不能也醫之於藥物其急且必猶將帥之於卒徒苟舍之雖良將神醫亦但束手待其亡且斃

耳。故戰之勝敗由卒徒之強弱。治之功否。內藥物之精良與粗惡。豈可不慎哉。然則為醫者之於藥物。惟由本〻草〻之學。不可不急且重也。上古聖神為作之經而來。莫世不諜之。至明李時珍繼目。殆乎集大成。然詳於說。而略於圖。且其為說。或謬妄者亦不為少。或專氣味。而遺

形狀。今求之風氣絕殊之東方。小大厚薄。美惡能否。既已不同。而未能的知為某物。而淺人妄擬而用之者有焉。庸者不察而施之者有焉。學之不諜。其害人不細也。乃有若水稻先生者出。而斯學頗明。及貝原松崗阿部田村大田小野諸先生繼興。則其說益精。然猶急於說緩於

畫。或雖有畫。甚略且拙。輾轉臨摹。花果不分。庸訛為猫。後學疑貳。受或滋甚。洵可惜哉。此余畫譜之所以作也。蓋形狀可見者。莫若圖象之易辨。非如性情氣味之待之語文字而後識也。夫舜象刑。使知劓刵椓宮。禹鑄鼎。使避魑魅罔兩。豈其遺文字。而為畫象乎。欲識斯物。固非親目則不得也。然萬物之多。東西之遼。榮枯異時。山海危險。豈能盡得而親目之乎。是則畫與說。亦起於不得已也。而斯二者。雖相因乎發。不可偏廢。圖之於物。一間耳。說又隔一層。故說雖極其詳悉。讀之之間。待命意立象。而後識。猶有疑似難辨者。畫則不然。一覽瞭然。莫復煩

推測考覈之勞也則圖之爲貴可
見矣故畫不可以不精巧苟不精巧
何以能辨似而非者之安在其爲可
貴也世醫者徒急於射利不察
醫之所以爲醫犬馬土苴以視人
之死生人或責之則曰命曰術盡不
復以爲意何暇藥物之擇況於畫
与說乎又況乎於畫之精詳与粗

略乎於其急且必者既不暇之擇鹵
莽滅裂一委之藥肆不復問真贋
精粗縱使一旦欲辨之未嘗講而
明豈遽能辨之乎於戲疾之不起
皆果命耶術耶醫之獄訟官長
不親自聽之一據姦吏之僞案而
斷之則其所是所非皆果真是而
真非耶民豈冤哉洵可慨歎矣

余蓋憂之。蚤嗜斯學。每取羣書關係於斯者。竊敢折衷衆說。各歸其當。搜採山野。移圃栽盆。凡二千餘種。苗葉花實。隨時寫生。乃至異境僻地之產。其所目擊。莫不悉圖之。如斯者二十餘年。積成若干卷。名曰本草圖譜。其為圖。抖擻精神。盡竭筆力。極之精巧。施之采色。自

以謂無復所憾。志試開視之。雖兒童走牟。亦不待費口舌。而辨某為某物也。或使世醫者易彼急於射利之心。而用之於此學。資余此圖。溝而明之。名實不差。揀擇無失。主治適當。療病如意。則庶幾天下之人。遂乎生死乎命。可以無憾於疾病死生之際歟。然則此圖之於世。豈小

補之云乎。而非敢自賢於諸老先生。賴諸老先生。推而確之。使後學無疑貳之惑耳。亦未知其果無謬乎否。不敢自是。以博問於世之精於赭鞭者。剞劂功成。於是乎序。

文政戊子冬至日灌園岩崎常正

凡例

一此書從本草綱目部分。而首録山草者。以藥品中草木最多。且先所編成者故也。若夫水火金石禽獸蟲魚等圖。未能全備。以待後日。

一漢土圖藥品者。雖有備急本草爾雅圖三十圖繪祕傳花鏡等麁略不詳。不能寫其真出。及本邦山幸野山草花彙其他見干畫帖等者。多不施采色。或雖施采亦未得真。皆不足據也。此圖譜。彼此形

状。及同種異品。詳悉寫生。畫為雙鈎。使精工彫刻。刷畢又別命畫工施采。庶幾檢者不失其真。但命工施采。費用浩穰。故着色本待購者所求耳。

一此書專於圖。而畧於說。但上提漢名。下記本邦古名方名當今通稱。及各國各鄉形色氣味根莖花實生茂時節欲使人易識也。

一彼此品物。可得親睹者。皆就而寫之。至其如蕃物甘松欝金香肉豆蔻丁香等者。以宇田川榕菴所藏西洋物印忙圖補之。或彼此雖俱有其種類少。而和蘭則多者。亦加載之。各記其書名蕃名。又雖本邦所產。其圖成於他人者。傍記其所出處。

一此書國字傍注者。欲雖山樵漁夫。亦使其咄嗟易辨也。但恐文詞拙陋。有欲明反暗欲正反訛者。大方君子其幸正之。

本草圖譜卷之五目録

山草類 一之上

甘草	福州種 あまくさ	二
黄耆	やつらくさ	三
一種	紫花之物	
同	一年之物	
佛掌參	かのふげくさ	七
一種	紫花之物	
同	南京種	
木黄耆	ふじこうぎ	四
人參	御種	五
同	二年之物	六
一種	實半黒なる物	
土參	ようのふんじん	八

沙參　はりか採ふんだん　九
一種　白花之物
細葉沙參
ひめ沙參
一種　尾州産　十
たま沙參
地參　十一
ゑうらく沙參
羊乳根　はるふんだん　十二
薺苨　そだな　十三
杏葉沙參　唐しやだん　十四
一種　白花之物
桔梗　ありのひふき　十五
一種　白花之物
一種　淡黄花之物
一種　紫白絞
一種　糸きてやう　十六
黄精　漢種　十七
偏精　なるこゆり
一種　南部産　十八
萎蕤　ゑそくさ　十九
一種　紫斑あるもの
一種　矮生之物
一種　荷苞様　十九
鹿藥　ゆきざてさう　廿
知母　たまかすげ　廿一
肉蓯蓉　きむらたけ　廿二
列當　たゐうつぶ
一種　武州御嶽山之産
一種　蠻産　廿三
赤箭天麻　ぬもびらのあし　廿四
一種　緑莖之物

白朮	漢種	廿五
一種	和產	廿六
一種		廿七
一種	細葉之物	
蒼朮	漢種	
一種	和產	

帝國圖書館藏

本草圖譜卷之五

東都　岩崎常正著

山草類　一之上　四十八種

甘草
春宿根より
生ず葉小微く
糙澁あり莖
るさ一二尺
根本を經ゆ
花実あり
あまくさ
和名鈔
南京種は直根にしてやゝく
皮深黄色にして味甘し

黄耆

やりらんさ 本草和名

綿黄耆ハ藝州處嶋より出るとゆふ莖直ちに茎ハ槐に似て軟にして七色葉あり莖ちるさ三四尺秋花あり形胡枝子花に似て黄色從て莢を結ぶ角中空虚にして漸小子あり根大なるハ小児の臂ほとに肉黄白色これを折るに其柔軟なるは上品にて味甘

ふじのうぎ
駿州富士山中にあり蓋蔓の如く
根白色にして硬く味淡し洗美の
花を同意思結ぶ一種紫花の
物あり苗根ともに小なり二種とも
木黄耆にして下品なり

一種紫花の物

人參（にんじん）

御種（とな）にんじん

二年の物

一年の物

元文三年朝鮮より人参の種にて下野那賀郡にて作る実を植て初生一莖三葉となし二年にハ二椏を生し一枝各五葉つく三四年にハ三椏五葉となし中心小白花を実く実扁く生ハ緑色熟まれハ紅色にあり中に仁二三箇あり根年を経て長大なるもの五椏七椏になり花穂にも枝を生ず

佛掌參（ふつしやうぶん）

維西見聞記

かのふげくき

和名鈔

竹節人參なり 堵園山中皆あり 苗葉朝鮮種に似たり 深山北陰の地に生ず 根ハ委蕤に似て節あり 味苦し 実圓く生ハ緑色熟すれハ紅色になる

一種実半黒あるもの

一種

紫花れもの

土參　秘傳　花鏡

芳野ゐんぢん

今ハ芳野にてハ採つくし紀州境にて作るこしなり
茎葉竹節ゐんぢんと同したゞ虫根なり

沙参
清里が孫ゐんぎん
數種あり處々山野陽地に
多し嫩葉ハ圓して馬蹄のゑ
莖るさ三三尺梢の葉ハ狹長く
鬱毛茸あり葉と橋ハ白汁
出づ葉狹濶花に淡紫白
等の數種あり

一種
白花れゐ

細葉沙參（さいやうしやしん）

救荒本草

野生たまくあり
花淺紫色あり

ひめ沙參（しやしん）

一種

尾州（びしう）産

地參 救荒本草
葉濶く鋸歯あり三葉對生し花大にして淡紫色形山小菜の如くなり

たま沙參
又大和あやあんともいふ葉厚く光澤あり
六月花を開く深碧色愛も屋しし

羊乳根 附録 ぎうにんぢん
山陰に生ぜ春宿根より蔓と生し莖根とも小切ハ白けいろ花の形地参に似て紫黒色あり
一種原野に生ずるもの苗葉皆小にして毛茸あり

ぶうらく沙参
葉は杏に似て互生し花五瓣紫碧色甚細く切とり

薺苨（せいじ）

そむな　羽州

又まる葉沙参（そんじん）ともいふ葉（は）ゑうらく沙参（そんじん）に似て大く薄くして光澤（ひかり）あり花紫碧色（むらさきあり）なり

杏葉沙參 救荒本草
唐沙參 和俗
根ハ桔梗の如く肉実也
茎えだ四五尺花ハ沙參ニ
似て鮮紫色大なり

一種白花の物

桔梗
ありのおもき 和名鈔
一種白花の物

今通してきてやうとゆふ数種あり
花に紫色或は白花を淡黄色の物あり又紫白
[illegible]
千鍬 扁子
桔梗等あり
又紅桔梗とゆふあり花実て平ろ
ゆふ花に紫白淡黄の別あり
淡黄花の物

一種 紫白あり

紋桔梗の一種淡紅の物

一種 糸きゝやう

又ひなきゝやうともいふ小草なり花紫碧色花実の形ふくりて桔梗の屬とも根細くして白色なり

黄精（ワウせい）

享保年中漢種痩る草細くして根大なり脚葉を互生し梢葉を對生せ花を和麦と同し淡緑色実ハ大豆の大きゆて熟れハ黒色也元陳藏器の説ハ正精なり

偏精
山中陰地に生ず葉頗る粉緑色にして互生も花実前條と同し

一種
南部の産なり苗長大四五尺葉ハ百合に似て大なり根も肥大なり

萎蕤 ゑみぐさ 和名鈔

莖高さ一尺余夏月葉間に花を下垂し形黄精に似て白色実熟すれば黒色なり一種紫莖の物あり

一種葉に紫斑あるものあり葉濶く莖細し

一種矮生の物
一種俗に荷苞様の萎蕤
といふ葉ごとに一枚を生ず
別に小なる二葉を生じて白
花を包ミ二花連り開く

鹿藥 附録
ひきざくおこう
深山に生ず葉ハ萎蕤
に似て軟なり苗小なるハ
數す大なるを二尺に及ぶ
横に花攢族也白色根も
萎蕤に似て黄白色実
黒色黄精子の如し又
紅色なるものあり

知母

知母
七十

肉蓯蓉

きむらたけ

駿州富士及野州日光山にあり
樹根に據て叢後長さ一尺余
煙きりの六七寸鱗甲あり梢
穗にあり紫紫花と開く形
天麻の如し根に環ありけして
七八寸たるゝき採べし長まれハ
粉虚にある

列當 えまうつぶ

一種 武州御嶽山中に生ずるもの
花淡黄色なり

海邊の芝地に生ず尾州にて八茵陳
根に擬て生ずるものあり肉蓯蓉より
瘠小にして鱗甲粗し

一根二三莖を生ず花淡紫色

赤箭天麻

ぬすびとのあし

諸國山野に四月生ゑ今年生ずる処明年生せば苗五六寸の時掘採ハ根実も長すれども三四尺捕穂になりて葱花を開く形去参ゑ似て大なり花下に莢を結ぶ中に莢粉あり

一種緑茎にして白花なるものあり これを一説に雷殻の説の御風草に充れども御風草ハ葉背白しとあれハ穏當ならず

白朮

漢種のものなり葉五尖ありて厚く硬く光澤あり花紅色黒き藥あり莖さゝき三尺なり根は培養すれば甚肥大になるなり肉黄白色軟かしして上品なり

一種細葉の物尾州より秀る花紅色根漢種の物と同し

蒼朮

漢種あり葉に又あく旋覆葉に似て硬く莖を抱て生ず花白色形とけらと同し根連珠の如く肉冷黄色あれを折ハ脂膏多し上品なり

至于 [illegible]

一種

これ又薄種ありとのふ葉ハ槇櫃に似て深緑色光潤あり葉莖を抱かず根ハ和の蒼朮に似て花白し

本草圖譜卷之六目録

山草類 一之下

狗脊		一
貫衆	ちりめんくすんぶう	三
一種	やまそそう	
一種	はる貫衆	
一種	ぶゐづ孫のき	
一種	長葉之物	
一種	おもちしだ	二
一種	えくがしら	四
一種	たましだ	五
巴戟天		六
かさのれんさ		七
遠志	ひめれぎ	八

宮内庁書陵部

一種　大葉之物
一種　紅黃花
一種　いかりさう大葉紅花
一種　小葉白花
一種　いかりさう
仙茅　きんぢいさく　十二
玄參　淡黃花　十四
地榆　蠻產　十六
百脉根　おぐるむる　九
淫羊藿　漢種　十
一種　五辨
一種　大葉白花　十一
一種　肥後之產
一種　挾葉　十三
一種　紫花　十五
一種　加州產
一種　信州產　十七
一種　白花
一種　紅白斑点　十九
紫參　むるさらのを
王孫　おふのまゆはさ
紫草　むらさき
白及　しらん
三七　廿五
一種　これもかう　十八
丹參　紅花
一種　黃花　二十
一種　くるんゆさふで　廿一
一種　青莖　廿二
白頭翁　をきなくさ　廿三
一種　白花　廿四
一種　水前草　廿六

本草圖譜卷之六

東都　岩崎常正著

山草類　一之下　四十四種

本草圖譜 卷之六

江戸

巴戟天

ちゐづ稱の木
豆州天城山に産せ
紫圓くして尖りあり
一尺なり刺なり
五瓣の小白花を開き
実を結ぶ紅色
より小さ根連珠を
一種細葉のものあり
紫の壽庭木の
して小ありこれハ根連
珠をあきぐ刺虎の
属あり

かきのたぐき
山城國天台山及甲州に産れこれハ草本あり
春宿根より生じ枝葉ハ似て軟あり莖まるり
七八寸赤に穗とあして黄色の花を開く形
唇の如く形蝴蝶花に似たり根黄白色連
珠とあれこの物模頌云山葎根の類あるべし

長葉のかきのたくさ

遠志
すぐめたぎ 江戸
山野陽地にあり小草なり葉ハ絡石ニ似てり春月紫間に小紫花を開く後扁莢を結ぶ根美白色なり
細葉の物
上品なり

一種大葉の物

百脉根 みやこくさ

淫羊藿

漢種あり高さ一二尺三枝九葉とあれ其一葉の形秋海棠に似て硬く周に軟刺ありて光澤あり

春月葉ともに穂を生し紫色を帯ぶ開くときは淡黄褐色いかりさうの花と大に異なり葉用に上品なり

一種
此品ハ常のいかりさうより苗葉ともに小く花白色あるもの
一種
葉莖肥大に花も又大りして白色の物

いかりさう
一種
癒の止りの花ハ五瓣にて淺紅色の物
葉莖一尺余花ハ常のいかりさうに似て紅色肥大なり以下ミな和產之

一種 いかりさう

處々山中にあり三枝九葉をなし苗葉小なり
花ハ四瓣形いかりの如く紅色なり

一種

肥後の熊本の産なり
苗甚小にして一茎二葉
をなし花六瓣形茉莉
花に似て小く白色いろ
さうの花と異なり是を
江戸にて梅ざ花と唱ぶ

仙茅 きんだいざく

紀州熊野駿州
富士肥前八郎山
等に生ず葉ハ藜
蘆に似て瘠小一根
叢生一根上に六瓣
の紫花を開き後
実を結ぶ芸薹子に
似て黒色あり

一種

挾葉のきんたいざく

一種
武州道灌山煉馬大箕谷和州
豆州平井山等にあり上品なり
形状前種と同く莖紫色花
紫黒色根肥大なり

地榆（おゆ）

ヒムビ子ルラ　喝蘭

蠻種渡り今世に多し子と下して生じ又宿根よりも生ぜ紫ハ委陵菜に似て園にありこれもかうに似て小なり花もこれもかうに似て紅色の絲の如き紅色の蘂と吐出す根直下して軟なり此品ハ即救荒本草の胡蒼耳なり

一種

加州白山に産ほ紫ほれもかうより長大にして粉緑色花穂長して垂を紅色の長蘂を吐出す本ようさに上る

からいとさう
信州
葉短く粉緑色花色
落く末ゝりさ花下る
紅絲と垂るが如し以
上三種根柔まして
即綿地榆なり

一種
れもかう
一種細葉白花のもの
武州志村の産なり
一葉の形柳榆に似て
花の形えんの木の実に
似て紫黒色なり

丹參

くるがさう

花紅色の物

葉の形三尖ありて旅形の如し故に名付く方莖地に搆す莖なるさ二三尺秋月穗となりて花あり唇の形のぬく又白桐花の形に似て小なり故に又尾州にてもあきぎりと名付く花紅紫色なり根ハ玄參に似て細く赤色にして淫あり

一種

花紅色の斑あるもの

一種

野州日光山にあり
形状紅花の物と
同じく花黄色根
細く色薄くして
下品なり

紫參 たるとらのを

諸國深山に生ず二月葉に先ひて花穗を生し形蓼花に似て白色葉ハ虎杖に似て軟く背紫色なり根連珠をなし一年一塊を生ず外皮赤褐色肉淡紅色これ模頌の説に亦有似羊蹄者と云これなり

一種 くわんゆきふで

日光足尾九藏峠に産するたるとらのとなり葉たるとらのをとり茎長く葉ハ茎を抱て三四葉互生す花の時遲し根ハ連珠をなす花色ハたるとらのをとり

王孫 とにのまゐたれ

處々山陰にあり宿根より生す莖紫色頂に四葉對生に全く及巳に似て大に生ず

一種 青莖の物

一二尺花穗も及巳に似たく長大に蘓恭の說に葉は似及巳而大根長尺餘皮肉皆紫色といふに符合せ先輩はくだ孫さうを充れども根白色なれば集解の說に合がたし

紫草 むらさき

南部より多く出づ三四月実を稔て生ぶ
又宿根よりも生ぶ花五瓣白色実ハ大麻の
如く小て白く 根深紫色なり

白頭翁 ときふくさ 本草和名

山野陽地に多し花紫黒色実ハ白色の毛の如く下へ垂る根ハ牛房に似て瘠と短し

一種 白花の物

白及 志らん

人家に多く栽也花紅色建蘭に似たり実ハ英ニ茂根ハ扁螺の如く白色粘液多し

一種 水前草 和俗

ふさるり三七の屬にて
葉に叉なく根ハ鬚の
如し花紅黄色にして
ふさるりに同し葉と
採羹て食ふべし

本草圖譜卷之六終

椿齊　岡田清福摸寫

本草圖譜卷之七目録

山草類　二之上

黄連（ゐうれん）	かくまくき	一種	一種 大葉之物 二
一種	三葉之物 三	一種	長葉之物 一
一種	大の芹葉之物 四	一種	芹葉之物
一種	細葉の物 五	一種	豆州之産
一種	蝦夷之産 六	一種	かさぐさ黄連
一種	大葉かさぐさ黄連	一種	五加葉黄連 七

一種　屋久嶋之産　黄芩　こがねやるぎ　八
一種　白花　柴胡　九
一種　あらるさう　十　一種　木曽の産　十一
前胡　うだな　一種　白花の物　十二
一種　かゴ前胡　十三　防風　漢種　十四
一種　伊吹防風　十五　獨活　漢種　十六
羌活　あくうど　十七　一種　高尾羌活　十八
土當歸　まるうど　十九　升麻　しづふで
一種　大葉之物　二十　一種　細葉之物　廿一
一種　くされんげ　一種　信州之産　廿二
一種　八丈嶋之産　一種　白花とりあし　廿三
一種　あれりさう　一種　とりのあしくさ　廿四
苦參　くらく　廿五　白鮮　漢種　廿六
延胡索　漢種　一種　肥後之産　廿七
一種　一種　竹葉之物
一種　はぶて　廿八　貝母　たくくさ

一種　蠻産　廿九
山慈姑　あまな
一種
一種　尾州之産
石蒜　ひがんばな
一種　白花之物
一種　まつ水仙　卅四
水仙　卅五
一種　うむゆり　三十
一種
一種　蝦夷之産　卅一
一種　かさらぎ　卅二
一種　きつねのかえそう　卅三
一種　江州之産
一種　蠻産
一種　八重の物

本草圖譜卷之七

東都　岩崎常正著

山草類　二之上　六十二種

黃連

かくまくさ　本草和名

加州より產するを菊葉に似て四時凋ぜ正二月花を開く五瓣ありて内に又細瓣あり黃蘂なり白花のもの多し後莢を結ぶ形樓斗菜の実に似て車輪の如し花後新葉を生ず根黃色毋根ありて鬚多し味甚苦し上品なり

凡黄連の類ハ四時凋ませ三月花を開く五瓣ありて内ニ又細瓣あり黄蘂之白花の物多し花後莢を結ぶ形糠斗菜の実ニ似て車輪の如し花後新葉を生ず根黄色母根ありて鬚多く味苦し

一種 大葉の物

薩州よりいづるといふ菊葉に似て粗大なり花実ハ菊葉に同じ根又上品なり

一種 三葉の物

此ハ菊葉の三葉なるゆゑ根もまた大なり

一種 長葉の物

若州に産す川芎葉に似たり

一種 大の芹葉の物

芹葉に似て長大なり莖長し

一種　芹葉の物

丹波の龜山野州日光山及山城の貴船等より出づ芹葉に似て細し

一種　細葉の物

和州豆州甲州等より出づ蝦夷に産するもの尤細し蘓頌の説に葉如小雉尾草といふ物あの属なり

一種　豆州の産

一種　蝦夷の産

一種　かくれぐさ　黄連　野州

野州日光及甲州信州等にあり三葉相合して首蓿葉の如く黄緑色根細長蔓となる花一茎一花五瓣白色梅花の如し

一種　大葉　かくれぐさ　黄連

一種　五加葉　黄連　和俗　屋久嶋の産

又銭黄連ともいふ京の比叡山甲州金峯山等にあり葉の形五加葉の如くにして小なり根蔓にして土中を延ぶ根連珠となる又一種根蔓にあらず特生するものあり葉も大にして厚し屋久嶋に産す根の形菊葉の物に似たり

黄芩

こがねやなぎ

種朝鮮より渡り多く作る葉ハ子屈朱ハ小似て狹く對生し高さ二尺花ハ本間ニ似て末唇乃如く紫碧色後扁さ骨突を捲ぶ中ゝ細黑子あり一種白花のものあり根大なるもの二尺許皮黄褐色肉黄色味苦し

一種 白花の物

一種 ホたるさう 同名なり

處々山野にあり車前葉に似て尖り莖高さ三尺許花を前種と同し根短く肥されども下品にしてこれ南柴胡なり

一種

木曾の白山に産するもの四五月花ありて柴胡の如く黄色なるさ一尺に過ぎ根細く蔓の如く處々苗を生ず

前胡（せんこ）

うだち 本草和名

白花の物

處々山中に多し初生三葉長せれば獨活葉の如くにある莖紫さゝ三四尺花の形芹に似て大に紫黒花を開く実大麥の如く條理あり

一種 かゝ前胡 和刪

和刪に産せ巣ハ當帰に似て緑色莖なさ二三尺花傘状をなして白を根細長にして又あゝ黄白を芬香なり 蘓頌の説に色理黄白似人参而細短しと是なり

唐種防風なり享保年中に
渡る葉は白頭翁に似て毛なく
粉緑色茎なき二尺余形水
芹花に似て白色細小実は
竊衣に似て糙澁なし根
長さ四尺又なく黄白色
蘆頭の處に枯葉の茎ありて
筆の如し故に筆防風と名づく
薬用に上品なり

一種

伊吹防風 和俗

下総小金武州山野にもあり葉ハ胡蘿蔔に似て小芽をさき二尺許小白花傘状となる根黄白色防風に似て短し一種白川山にありて白川防風と称するものハ石防風なり又一種俗におうふうと呼で食料するものを時珍云ところの珊瑚菜なり

獨活

漢種のものハ葉初生二枝九葉長まれハ数葉一莖ニつき大さ二尺許深緑色にして光澤あり幹まさ五六尺粉紫色を帯ふ花ハ白色実ハ白芷に似て大に羽あり根の肉黄白色烈香あり味辛し熱湯をかけて乾バ服用し易し

羌活 きゝうど

信州及野州日光山常州加波山南臺城等に生ず葉は食料の櫻木の一種に似て又多く光澤なく熱緑色花白色根皮黄褐色肉白し氣味猛烈なり故に病人服するにあらんかぬるものあり熱湯をかけて乾てよし

土當歸（どとうき）

えぶうど

江戸辺増上寺山中にある
里増上寺白芷と呼ぶ又
飛鳥山下陰湿の地多し
宿根より生ず五月花あり
白色形獨活に似たり莖
中空虚にして毛茸多く
條理あり臭氣多し ことの
集解にて考へる説なれ
ども本草原始に土當歸
深類獨活但肉白聞之臭
氣薫人賣者銀充獨活と
いふ誤也

升麻　ミヅふで　肥前 肥後

武州豊嶋郡野州日光山其餘諸國に生ず葉八三枝九葉を有し獨活葉に似て硬く光澤鋸齒あり莖高さ二三尺黒の穗の如く白蕊を吐ぬ花玄少なりて六瓣なり根一年一塊を生じ皮青黒色肉青白色味苦し

一種　大葉の物

俗に鬼臉升麻と呼ぶ一莖三葉其一葉甚大にして秋海棠に似て鋸齒ありて鬼臉の如し葉中より莖を着け

一種
細葉の物

武州飛鳥山下に多し
葉ハ川芎の如く穗に枝
あり根ハ數塊連族して
皮青黑色肉青綠色
めして舶來の品と同し
弘景說ところの雞骨
升麻これなり

一種

信州草津山中に生ずるものあり
葉は白根あつひに似て花の形あらがの
如く白蘂あり根に蘆頭ありて長き
鬚あり

一種 くされんげ

武州御嶽野州日光山
等にあり葉は前種
に似て莖頭に一花を
開く形白蓮の如く
あてはくなる紫を
帶ふ花ある下面に
根はあらず升麻に似て
細長なり

一種 白花のとりあし

莖葉とともに長大あり又一種花黄色なるときじの尾といふ

一種

八丈嶋に産するハ葉に光澤あり白色にして微美を帶ぶ

一種 あへのりさう

苗葉短く葉深緑色
光澤あり花純白色なり

一種 こうのあしらさ 延喜式

葉ハ櫟葉ニ似テ枝多く花淡紅色細碎根ニ黄赤毛ありて肉淡紅なりして升麻根と異なり以上四種ニ落新婦一名小升麻ニ充ちハ穂ありとぞ小升麻ハあへ谷の一種ありて下品なるものあるべきの類ハ升麻の属をあること遠し

苦參 くらく 本草和名

下濕の地に生ぜり葉の槐の如く嫩苗紫色を帯ぶ莖さ三四尺穗を生じて槐花に似ず白色又淡黄紫色のものあり後角を結ぶ槐角に似て細し根午房の如く外皮黒色肉淡黄味甚苦し

白鮮

漢種の物真物之宿根より芽を葉ハ具茱萸に似て小く竹葉椒に似て大なり花ハ萱草花に似て小く白色にして紅紫を帯ふ莢ハ五稜ありて形八角茴香に似て大なり中に小黒子あり椒目の如く葉莖ある山椒の香ひあり故に金雀兒椒と名ぼく根白羊皮に似たり

延胡索

享保年中唐種渡る上品なり
正三月苗を発す葉ハ牡丹に似て
小く黝緑色花の形黄芩に似て
淡紫色又桃朱術ゲンに似ち根
圓して皮肉ゑ黄色指頭の大さ
にて上品なり

一種

肥後の熊本に産するハ三葉
にして中央に紫色の斑あり
花紫色根ハ唐種の物に似ち

一種

葉ハ牡丹葉に似て稍細く花淡紫色なるあり是又漢種なりといふ

一種

尾州より來る葉極て細長にして胡荽の梢葉の如く花大にして青碧色根白色下品なり時珍の說に似竹葉樣といふ是なり

一種 はぶて 江州

武州道灌山に産するハ葉の形竹葉に似て小く三枝十四五葉をかけ花淡紫色根白色にして半夏の如く疣あり下品なり又武州井の頭にあるハ長葉にして紫斑あり共に下品なり

貝母

本草和名

漢種二品あり正二月生ぶ嫩葉ハ百合に似て梢葉ハ細して末蔓の如し花六瓣淡黄色実ハ八稜にして草解実に似たり根の形文蛤の如く二片相合て圓く白色なり一種ハ花淡白にして根に子を多く生ぶ

一種

フリチルラリブキイヒツブルーム 蘭和

物印満の圖に花紅白相雜るものあり奇品なり

一種 うむゆり

處々山陰に多し葉を依の形に似て莖を抽て葉車輪の如く互生し上に花あり六瓣形百合花に似て長く淡緑色根は山丹に似て黄白色なり蘓頌の説に似蕎麥葉といふ是なり

山慈姑

あまゐ

武州道灌山に産ゑ其外諸州にあり正二月に葉ゑ生ず中心一莖を抽ゝて一花を開く六瓣白色外に紫の條あり根ハ慈姑に似て甚小く黄白色なり

一種

濶葉にして中心白斑あり花もあまゐより大にして内白色外淡紫色の筋あり

一種　葉ハ鶴唐兒に似て一葉一花その花小にして白く形壺の如し根二三連珠をなゝ

一種　尾州より来る葉ハ粉緑色長さ三四寸一莖一花茨色にして大なり

一種　蝦夷松前に産もるハ花に枝ありて黄白色苗葉ともに長大なり

石蒜　ひがんばな

秋月葉を生ぜ水仙に似て瘠て硬く深緑色夏に至て枯秋にいたりて花のみ生ず六瓣赤色の花あつまりて傘状をなす根ハ水仙の如く皮黒し白花のものを銀燈花秘傳花鏡といふ

一種　きろ花のかゝそり

一種　白花のきろ花のかゝそり

春葉を生ず四月に枯五六月花のみ生ず形萱草に似て小く淡赤色なり時珍説ところの鐵色箭これなり

一種

江州志津原に産するハ苗瘠小にして秋月花を生ぜ形きろ稀のかゝそりに似て甚小く高さ三四寸花白色筒のやうにある実ハ韮に似て黒色なり

一種 なつすいせん

二月葉を生ぜ水仙より濶大四月に枯れ六月花を開く形きろ稀のかゝそりに似て大に淡紅色高さ二尺許根も又大なり

一種

和蘭物印滿の圖

ハエマンキユス 和蘭

水仙

房州に多し葉長きもの三四尺に及ぶ

玉玲瓏 花鏡

八重の水仙なり

房州よりも來る一辨おとに黄色の短辨を雜也又淺緑色のもの稀にあり

二種

知考寫

一種

物印忙の圖は水仙二種あり本邦にこの品あるあとを聞ず

ナルシツシユス羅甸　ナルシツセンテイロース和蘭

椿齊　岡田清福摸寫

本草圖譜卷之七終

本草圖譜卷之八目録

山草類　二之下

白茅	ちがや	一
地筋	あぶらかや	
芒	すゝき	
一種	しますゝき	三
一種	ますゝのすゝき	
龍膽	りんだう	五
茅	ぢがや	
一種	しやまきらんさう	二
一種	たかのすゝき	
一種	あかしらすゝき	
一種	糸すゝき	四
一種	白花	

一種 草津之産
一種 あけやんだう
一種 うすむさいあん
一種 加茂あふひ
一種 青莖
一種 らんあう
一種
獐耳細辛 ゆきこりさう 十一
一種 ほうやんどう 六
細辛 唐細辛 七
一種 日光山産 八
杜衡 かんあふひ 九
一種
一種 ぜにむ 十
及已 ふさりあづか
一種 深紅花
一種 碧花
一種 かしこのむぐさ 十二
一種 ゆみぢむのはぐま 十三
一種 たまぶき 十四
一種 日光山之産 十五
一種 さじくさ 十六
除長卿 ふなこら
一種 ほるがしこ
鬼督郵 くさまむ
一種 あいざんむぐぬ
一種 かうのりさう
一種 兎兒傘
一種 もしぢさう
一種 紫背のむぐぬ
白微 おわふなこら 十七
一種 いよかづら 十八

一種　かもめぼる　十九
一種　くさたちばな　二十
釵子股　ゐうらん　廿一
硃砂根　まんてんこう
紫金牛　やぶかうじ
拳參　伊吹とうのを　廿五
白前　のかづむ
一種　肥後白前
百兩金　するが　白　廿二
一種　木たちばな　紅實　黒實　廿三
一種　ほるかうじ　廿四

本草圖譜卷之八

東都　岩崎常正著

山草類　二之下　五十六種

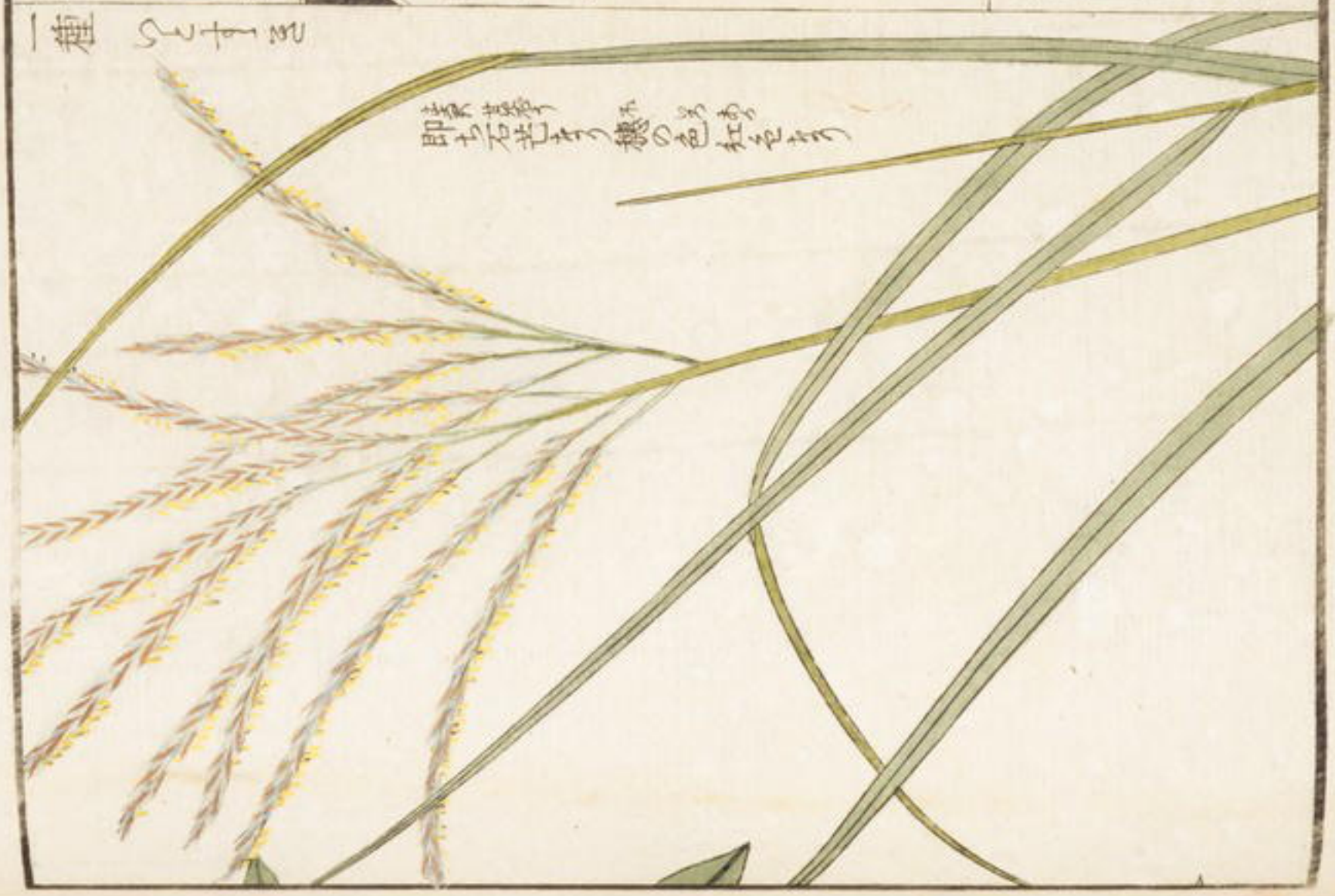
茅
かや
地筋
こゝやまきらんさう

あぶらかや

一種
たかのむすき
一種
しますき

芒
すき

一種
一種
まもの
穂を生ずるあと早く五月なり



一種

白花のもの葉稍圓にあり莖緑色なり

一種

信州草津野州日光山加州白山等に生ずるハ莖直立一葉頗粉緑色四月花を開く内外ともに深碧色根肥て淡黄白色上品なり

一種 ほるまんどう

深山陰處に生ず莖蔓の如く葉濶く三縱道ありて冬凋まず花ハ龍膽に似て白色後紅色の実を結ぶ根白色にして細し蘇頌の説に山龍膽其葉經霜雪不凋此同類而別種といふもの是類なり

一種 あけぼんだう

陽地にあり小草なり苗一二寸に過ぎ春月花あり形ぼんだうの如くにして甚小根短小なり先輩の說本草彙言の石龍膽に充るものゝ

細辛

俗に唐細辛と呼ぶものあり葉ハ加茂あふひに似て紋理なく水鼈の形に似て後尖りあり一葉或ハ二葉ゆゑ葉間に花を開く三辨にして形壺の如く紫褐色根細くして辛し上品なり又肥後細辛と呼ぶもの是に類して上品なり

一種 うすむ細辛 俗称

唐細辛より葉薄ふして稍大あり又上品なり

一種

野州日光山に産するもの肥後細辛に似て稍大に長くあり頗紋理あり

一種 加茂あふひ

城州常州筑波野州日光山等ニあり葉の大なるハ二三寸あるあり二葉で生ぜ花淡紅色雷斅の説ニ雙葉のものといふこれなり

一種 青莖の物

杜衡 かんあふひ

山中陰地に生ぜ冬不凋葉の形馬蹄に似て小く紋理なく花ハ細辛に似て紫色なり根ハ細辛に比されバなまぐさし

一種 葉長ミあるもの

一種 らんよふ 俗称

葉の形散の如くにして三尖あり深緑色にして中に淡緑の筋脉あり

一種 せにむ

葉正圓して小く錢の如く厚くして光澤あり

一種 御紋せに細辛 俗称

葉の形せにむの如く莖短く地にあり其外杜衡類甚多し

及巳 ふさりしづか

山の陰に生ぜ莖頭に四葉對生して王孫ゑやの如く莖ゑさ三四寸葉中花穗あり白色孫の如し此粉小異あり葉の狹濶莖に緑紫の別あり根ハ細辛に似て香氣あり

獐耳細辛 釋名

さんかくさう

佐州の産ハ花色深紅或碧色或ハ白色その淡紅なるハ多し正月葉と先て花あり六瓣なり九十瓣まで定ぬ二月葉を生ぜ三尖あり根細辛に似て細し

鬼督郵 むぐま

深山にはえ、車葉のむぐまと呼りの上品之一莖直立し頂に八九葉つくその一葉ハ蒼朮に似て又なし葉中より短き莖を抽して蒼朮の如き花あり黄白色後白色の茄となる根も及已に似て長し

一種 かしこのむぐさ

武州飛鳥山及大箕谷邊にあり前種に似て葉の形榊葉の如し

一種　叡山もぐま

葉ハ木芙蓉ニ似て小く茎紫色花穂瘦て小し

一種　りうきうのはぐま

葉ハ前胡ニ似て岐を深く紫色を帯ぶ茎花穂枝多く花細瓣紅色巻曲す

一種 かうもりさう

葉の形蝙蝠ヲ形の形が如く互生し花ハ前種に似て辨なく後白茹となる

一種 たまぶさ

野州日光山にあり莖高さ二三尺欵冬葉に似て頗三尖あり花ハ萵苣に似て白色葉間に零餘子坊の如き実を生ぜ

兎兒傘（とじさん）　救荒本草　やぶれがさ

處々山中にあり葉ハ薇蘅（びかん）ハシヤクに似て花ハえぐるの如し

一種　野州日光山の産

一種 もとぢさう

奥州野州にてハしとけといふ嫩苗を食ふ葉ハ八角金盤に似て小く軟に互せし花ハたまぶさの如し此物救荒本草蘭蒿の圖に似たり

一種 さゞくさ

山陰にはたゞ蒙吾の葉に似て甚小く花ハもくまに似て細小なり

一種 紫背のもくさ

紀州和州豆州房州等にあり苗地に揚れ葉ハ半房の形にして淡緑色の夾紋あり葉背紫なり

除長卿　ふるふるう

山野陽地にあり莖細く高さ二尺許柳葉に似て對生し葉間に五瓣の淡紫花を開き角を得ぶ形蘿蔔の毛に似て細長なり根ハ細辛に似て香氣なし

白微　くろづんけい　江戸

陽地にあり葉ハ柳に似て毛茸あり莖高さ三尺許長すれハ蔓をなす花五瓣紫黑色角ハ除長卿子に似て大なり

一種

はるがしら

野州日光山にあり葉大さ梢の如く圓にあり梢に四葉あつまりはさ紫花を開き角も集りはく此類二種あり

一種

白微

一種

いよかつら

葉ハ柳に似て蔓生なり紅花を攢開き

一種

かもめづる

水澤の地に生ず葉ハ千屈菜やに似て蔓生なり小紫花を開き角を結ぶ形ふるゝと同し

白前 のかゞむ 本草和名

肥前の大津にあり葉ハ白微ニ似て厚くして小く光澤あり莖高サ二三尺梢ハ蔓の如し花五瓣淡綠色形白微と同一根白色白微の如し

一種 くさたちだな

葉ハ白微ニ似て長く莖直卒ー五瓣白花を開く形白前に似て大なり

一種　肥後白前　俗稱

二種あり圓葉のものは白前に似て移緑色長葉のものは白微に似て狹し莖高さ三四尺花五瓣黄緑色蘋頌の説に葉似芫花とのふこれなり此物即救荒本草の兩天兒菜なり

釵子股　おうらん

九州及琉球等の暖地にあり木石によりて生ぶ葉圓く水松に似て硬く互生し莖間に花を開く形蘭花に似て小く紫色なり根は蚯蚓の如くにして緑色或は灰色なり

百兩金

たちばな 江戸

品類甚多ー人家多く栽て玩賞に凋葉挾葉長葉短葉光澤あるもの淡綠色のもの等あり花ハ白色實ハ紅色のもの常品なり淡紅色黃色白色紫色等の品あり

硃砂根 まんてまより

是まつこ品類ありたちばるより肥大なり花白色実は黄白あり根淡紅色なり

木たちばるに 暖地にあり まんてまりの屬にして枝幹肥大葉も又大にして厚く花実共にまんてまりに似て小し実は紅と黒と二品あり

紫金牛 やぶかうじ

大葉のりのをかまやまかほしといふ茶葉に似て薄く大なり品類多し

一種 はるかうじ

葉小にして毛茸あり

本草圖譜卷之八終

椿齊　岡田清福摸寫

本草圖譜卷之九目録

芳草類

當歸	むませり	一	一種 伊吠當歸 二
一種	草當歸		芎藭 をむなかつら 三
一種	大葉川芎	四	蛇牀子 とまれんしん
藁本	かさもち	五	一種 和産 六
徐黄 附録	むぐかさう	七	一種 伊吠せり 八
蜘蛛香	だけぜり	九	白並 よろいくさ 十

本草圖譜　卷之九目録　蘿園閣藏

芍藥　えびすとくさ　十一
牡丹　ふかしくさ　十三
甘松　十六
一種　山芍藥　十三
木香　おかくるま　十四

淵圖閣藏

本草圖譜卷之九

東都　岩崎常正　著

芳草類　上之上

淵圖閣藏

一種

江州伊吹山に生ずるゆゑ伊吹當歸と称し常州筑波山より自生花白色形状漢種に似て瘠なり根枝ありて閉ずる時珍云鍾頭常歸なり

一種

葉三枝九葉をなし羌活の葉に似て小く根黄白色香味薄もの なれ弘景の説處の草當歸と

同一種 芎藭

一種

大葉川芎と呼ぶ葉は百正に似て狹く
尖り枝曲り莖高さ二三尺小白花傘の
狀をなし根は芋の如くなりて圓く扁く味
辛かし苦し先輩弘景の說の馬銜芎
蘼に充れとの川芎とは氣味形異なり

蛇牀子 もまもんもん

武州洲崎下総行徳及
諸國の海濱に生じ形珊
瑚菜の葉に似て小く
光澤なり苗葉地に攤じ
莖長さ二尺餘小白花傘
の狀をなして芹の花に似たり
實未粒の如くなりて條理なり

白芷

よ紙いんさ

アンゲリカ

和蘭

漢種の物上品なり葉ハ羌活ニ似て狹く微粉緑色莖高さ四五尺梢ニ白花傘の状をなし實ハ獨活子ニ似て二片相合蘆頭の處

冬形狀漢種ニ似て根上紅色なし根色黄白色氣味薄し

紅紫色根の形羌活ニ似て頗る小く淡黄色烈香なり和産の物冬

牡丹 ふかゝぐさ 本草和名

ペオニアピュクン 羅甸

漢種の牡丹如筑前に載諸國に弘まる年々花色品類多くなる漢土にては群芳譜に百八十三種を載其餘諸書に見へる牡丹は即ち百両金にて和名からさちもなるなりと岡村尚謙齊百両金の圖の山草部に出草木略に云ふ藥著三代之藥

牡丹初無名故依均藥以為名牡丹晩出唐初有聞山堂肆考云牡丹但自隋以來之十集中無牡丹詩及除隋朝花藥中所無也云々蘇恭の說

もからたちもなる蘇頌の說かふゝ云さなり

本草圖譜卷之十目録

芳草類

甘松之一種	二	廉薑	かんぜきらん
杜若	三	山薑	とるめうか
高良薑	五	草豆蔻	
白豆蔻	七	縮砂密	
益智子	九	草茇	
蒟	十一	一種	あはびくさ

甘松 スピカセルチカ 荷蘭

舶来の物を乗甘松と云
物印忙の圖なり大さ一寸
餘にして細葉を集たる
中ふにて赤褐色香氣あり

一種 細葉の物 十二
同一種 十三
薑黄 十五
蓬莪茂 うまぐろ 十七
一種 おおかつり 十九
莎草香附子 廿
一種 かやつりくさ
一種
一種 かうはん 廿三
一種
肉豆蔻
補骨脂 をらんたびす 十四
鬱金 きそめくさ 十六
荊三稜 みくり 十八
一種 がぜ
一種 水莎草 廿一
一種 廿二
一種

本草圖譜卷之十

東都　岩嵜常正　著

穷草類　上之下

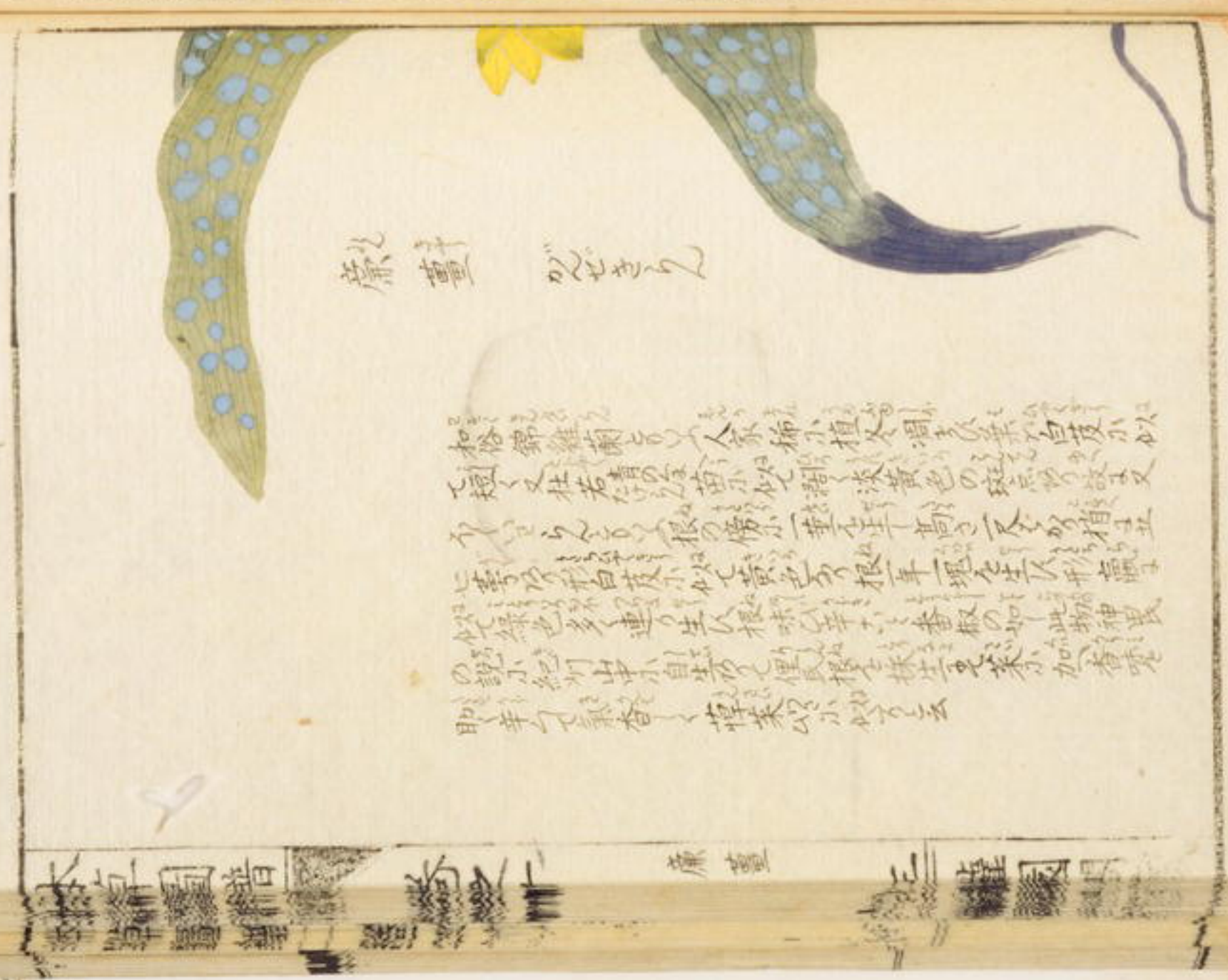
甘松之一種

海老様

スピカインヂカ 荷蘭

船来の物をひて甘松といふ
同上の圖なり和産なり根長
かして鬚ありて蝦の形をな
ひ上品なり

甘松



杜若

ゆくさの草たけらん

長崎にて和の高良薑と云形状ゆくさたけらんに似て高さ二尺ばかり莖緑色暖地なれば冬凋ん花の形も高良薑に似て白色心淡紅なり葉根これ良香なり根黄色味辛し弘景の説に葉似薑而有文理似根良薑而細味辛香と云又廣東新語に鮮草果人多種以為香料蓋即杜若非菜中之草果也其苗似縮砂三月開花作穂色白微紅五六月子結其根勝於葉味辛以温能避瘴氣と云是なり先輩かきつもて又中にめうか等を充るは皆誤なり別に委き考あり

山薑
とるめうが
豆州高田郡及ひ勢州紀州豫州駿州等に産し葉は薑に似

て微毛あり莖紅紫色高さ一尺餘冬凋まし莖の間に花を開く形ムまゝけらんに似て短く小く紅色あり實圓して紅し根は薑に似て細く硬し

草荳蔻

和蘭物印忙の圖カラシガ羅甸
此類の中にて苗葉萎蕤に
似て長く根の傍より實を生
じ形松毬の如く根横行し
良薑に似たるものなりされ
草荳蔻なり

白荳蔻

白荳蔻

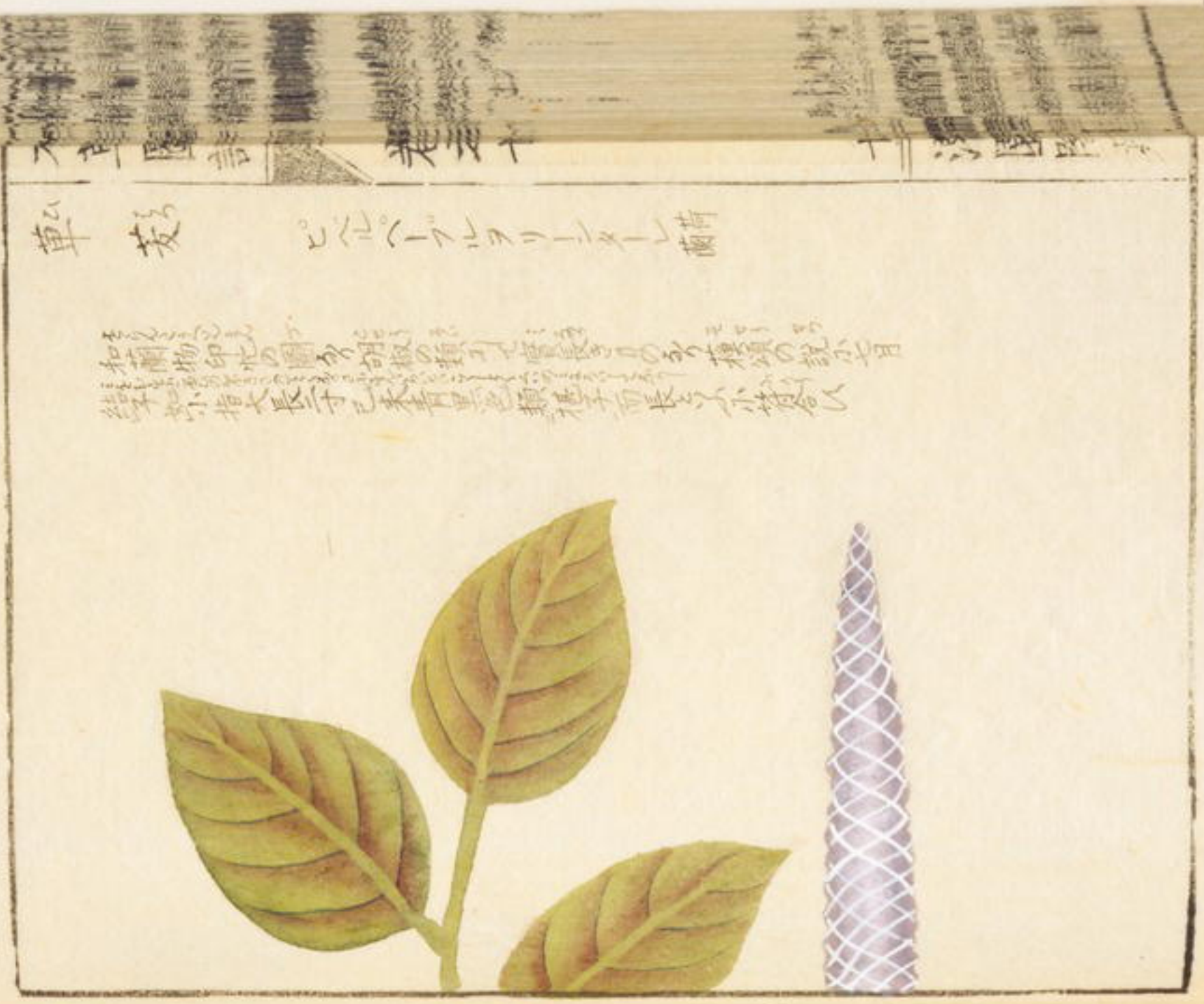
和蘭物印忙の圖ガランガ解れ類の中にて黄葉黄精に似て長く末に穂を生ず白き花を開くものなりされ白荳蔻なり

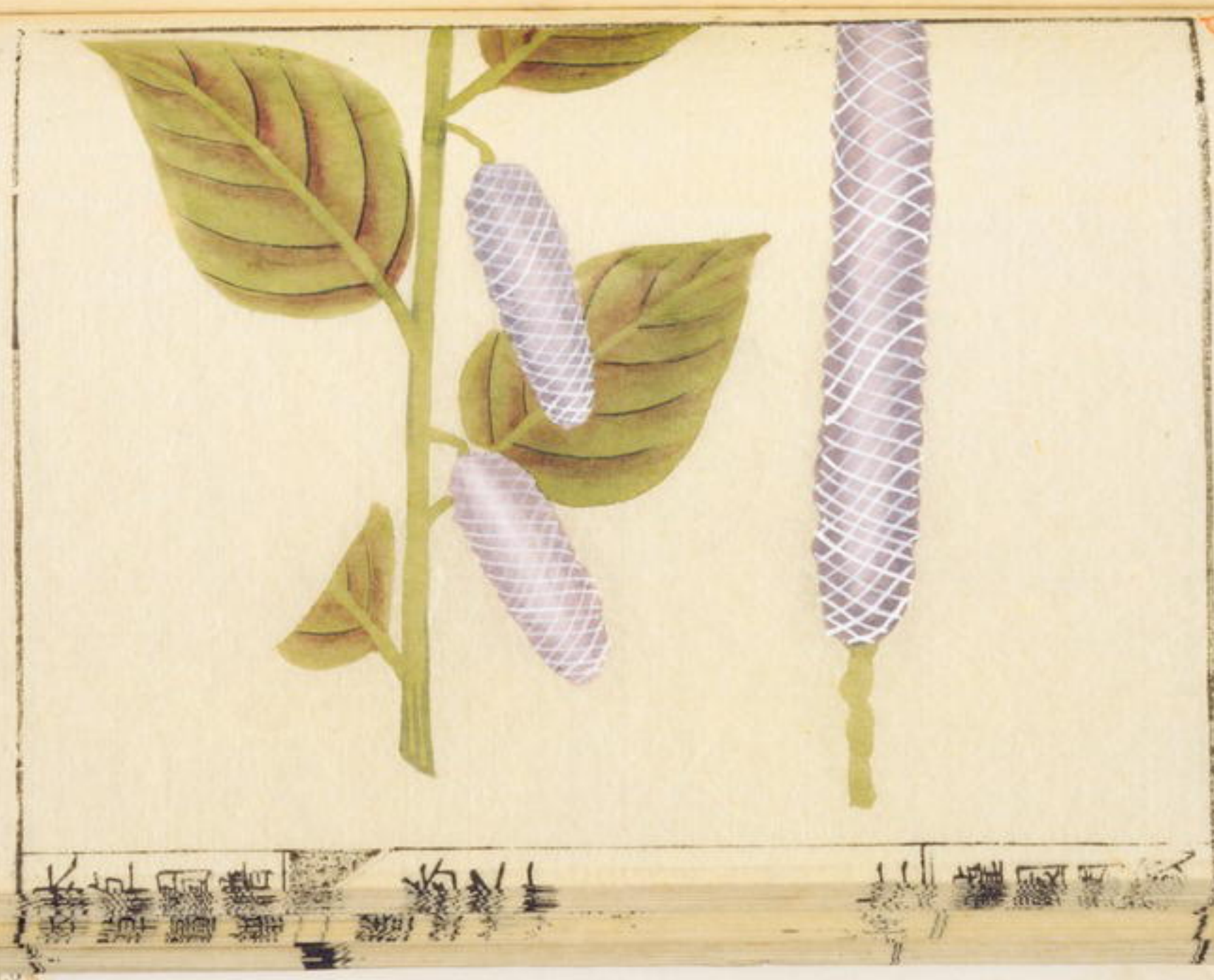
實

縮砂密

カルダミユムマユス 荷蘭

和蘭物印忙の圖なり其形木本の様にて枝を分葉狹長く實下垂して赤黒色なり然れとも本草綱目に縮砂益智とも小草本なりと云に合されば此圖信ドかさされとも西洋の古圖也姑くすべて載し





蒟醬

きんま 崑崙人の称

ペーブル 荷蘭

薩州土佐讃州紀州駿州豆州房州等ニ多クあり蔓草なり葉圓にして夫り互生して節の間より根を生じ四時凋まず中嶋氏云崑崙奴常小嚼食ふ

一種

ひるしいさ 志州

志州小白生あり葉圓にして潤く細辛の如くにて厚し

一種

細長葉の物

薩州より来る葉は薜荔のかたいの如く其蔓年を経るの花なり葉の間小穂を分て下垂し細長にして一寸許小白花を開き小圓子を結ぶ熟して紅色氣味草茇に似たり此類ニ莖葉香氣なり

薑黃

キュルチユマ 羅甸
インデアーンセ
サフテン 和蘭

漢種なりと云或ハ莪茂と称するハ非なり胃宿根なり生ハ葉ハ蘘荷ニ似て潤く大さ莪茂ニ似て中ニ紫の斑なり花の形鬱金ニ似て長く淡紅色根ハ鬱金ニ似て扁く純黄色香なり時珍云片子薑黄是なり

通してうすんとうと享
保年中漢種渡る形
狀薑黄小似て葉濶
く秋花なり白色淡黄
花蘂なり根ハ芋の如
くして深黄色なり

鬱金
きぞめくさ

蓬莪茂 うそぐろ

明和年中琉球より渡る三四月宿根より生し苗葉薑黄に似て葉頗狹く長く葉の中に紫色の斑あり此物稀に花を開くことあり六月頃苗の傍に生し形爵金花に似て紅色黄葉あり根芋に似て外皮黄褐色肉淡青く褐色あり

荊三稜

みくり 和名鈔

處々水澤の中に多く宿根より生じ莖に三稜あり葉は莎草に似て長大に莖高さ三尺穗の形莞いに似て三方へ分る根は烏芋に似て硬く黒色三四塊連る是藏器説とおもの黒三稜なり赦荒本草の黒三稜とは別なり一種れなかつりは河邊に生じ葉はこゝりとり濶大に根に小き塊あり長しありて瘠小く曲りて瓜の如しされ釋名の草三稜蘇頌説の雞爪三稜赦荒本草の菽蒦根とは同物なり

一種

おなかやつり

一種

がが

下野那須郡蘆野村
水澤中に多し香蒲葉
に似て肥大にして劍脊なり
高さ三四尺穗を生して枝を
分ち小毬を族生し黄白
色穗の下に毬實を結ぶ
形楮實の如し根に三四
塊なり慈姑の如く皮黄
黑色肉白色され蘓頌
說の淮南紅蒲根多し

莎草香附子

莎草香附子

そまさけ 本草和名

海邊或ハ田野ニもあり宿根より生ト苗葉かやつりくさに似たり高さ七八寸夏月穂を生じ形莞に似て瘠小く紫黄色のの碎き花あり根ハ三稜に似て細長く黄赤皮あり肉淡褐色堅實にて香氣あり宗奭の説に根上或有或無といふハ根に塊のあるとなきと云ふとあり其無と云ものハ海邊にあり宿根より生ト苗葉香附子に似て香氣あり花穂圓して楊梅の如く根連蔓延たり塊なしにあり

一種

水莎草

救荒本草 磚子苗注

水生のかやつりくさなり苗葉三稜に似て陸生より長大なり高さ三四尺武州不忍の池に多し

一種

かやはりくさ

夏月圓圃の中實なり
生ずれ形状水莎草に似
て穗疎く黄色なり高さ
二尺許り

一種

陸生にして苗短く高
さ三四寸穗は葉の中
央に生じて疎し

一種

苗葉三稜に似て穗は香附子の如く甚さ
密にして黄色高さ二尺許水邊に生ず

特1
278

一種

一種

水邊に生し高さ一尺許り
一根数莖をかし莖の頭
各三四毬を生し黒色を帯ゝ

苗小なる物

一種

かうぢん

苗葉たせきしやう
に似て扁く穂なるを
井に似たり

特1
278

本草圖譜卷之十一目錄

芳草類

瑞香	ちんてうげ	二	一種 白花の物
一種	金邊瑞香		一種 黃瑞香 三
一種	ひとゝあしおり		茉莉 まつりんかい 四
一種	千瓣の物		素馨
一種	黃素馨	五	鬱金香
一種		六	一種 七

一種

苗小ちて地おとふ品字をなしけるの之

特1
278

一種	木瓜の物	茅香	かうばら　八
排草香	かさしとう	一種	白花　九
迷迭香	まんねんろう	藿香	舶来の物　十
同	新渡の物	薫草零陵香	すきかさ　十一
一種	金鈴花　十二	一種	銀鈴花
蘭草	いしまかま　十三	山蘭	ひよどりさう　十四

本草圖譜卷之十一

東都　岩崎常正　著

芳草類　下之上

特1
278

瑞香

ちんてらげ

人家庭際に栽す小木にして三四尺に過れ四時凋れ葉は冬青に似て厚く正月花あり四瓣芫花に似て厚く大ひに外紅紫色内淡紅色香気強し

特1
278

一種　白花の物

金邊瑞香　秘傳花鏡

葉の周り黄色あるもしくつきんとする

白花にして紅實を結ぶ味ひ辛し故に誤て胡椒の木と呼ぶ毒物食へかたし時珍云有黄白紫三種と其白きものあり

一種

黄瑞香　秘傳花鏡

みつまた

駿州に多く栽も高さ七八尺枝幹瑞香に似て必ず三叉をなす冬月花房を生し白色下垂春に至て開くときは四瓣黄色香いなし葉は三月生れ桃の葉に似て先円し此皮にて紙を漉く

特1
278

茉莉

あらりんかほ 薩州

ヤスミニユム
サムバク

琉球より来る今多し
小木なり葉圓くして淡
緑色對生花夏秋の間
白花を開く梔子の花
に似て小く香気あり

手辨の物は葉圓くかく
ゑいあり花十餘辨あり

一種

花

を小石ぢり

竹林の中色に多し葉大軟に似て小木なり冬
月枝の間に花あり形丁香に似たるもあり丁
子と呼ぶ淡黄色夏葉ふし紅色の実を結
ぶ枇杷子に似て圓し味い辛く毒あり

特1
278

素馨　附錄

琉球種文政年中江戸人来る小木にて枝細く蔓の如し葉は迎春花に似て薄く一莖五葉なり對生花夏を秋まで葉の間に五瓣の白花を開く形抱子花に似て小く香気芳利を製し寶は竹茶に似て黒色種肌はよく

ヤスミニユム オドラ
ちゃしゃユム 羅甸

生れ寒を恐る冬は蜜の中に藏すべし正字通若字の註に今廣州素馨花或作郡悉茗段成式又曰野悉蜜出拂林波斯花五出白色不結實と不是也

一種　琉球　わらむい

俗に木香花と呼ぶ琉球より来るを云枝幹は素馨に似て夏花旋生其形迎春花に似て花瓣小なりて黄色香氣即盛京通志に探春花と云是も明の藩園草木識に黄素馨終年有花頗似京師黄迎春亦以花形似素馨得名殊無香也と云

琉球わらむい

特1
278

鬱金香　チユリハ荷蘭

常正云荷蘭のエレンゼンの
園あり花の色品類甚多
し其中一二色をこゝに寫し時
珍の説ゝ唐書云大宗時伽毘
國獻鬱金香葉似麥門冬
九月花開狀似芙蓉其色紫
碧香聞數十步有
花而不實と云是なり
又魏畧云生大秦國二

月三月有花狀如紅
藍四月五月採花即
香し

宇田川榕按ずるに「テユリハ」は和蘭佛蘭西華花
國に養ふ「テユリハ」は羅甸の名あり和蘭にて「テユリプ」
と呼ぶ莖円く中に軟き髓あり高さ尺許り根より二
三葉生ず葉濶く厚く邊に波紋あり先尖る莖の
頭に六瓣の大なる花を放し花の形一様なり色
も亦紅紫黄白其他雜色あり香く花後三
稜の実を結ぶ内に三室あり室中種子充つ種
子は赤くして圓く扁し根は球にして色黄或は黒し

特1
278

一種

一種

特1
278

一種

木本の物

荷蘭ウエインマンに載る樹の鬱金香なり按るに一切
經音義云鬱金此樹名出二閩賓國一其花黄色取二花
空置一處一待閑點二取レ汁以物和レ之爲レ香花葉猶有二香氣一

茅香

かうぐう　江戸

武藏堀の内原野稀
に有り宿根より生ず葉
は蘆觀草に似て初夏
短き穂を生ず茅の穂
に似て短く白色を帯
ふ根白花糸の如く香
気あり

排草香

かこみどり

或云道灌山にもあり宿根より青葉ハ花に似て小く尖りて狹く方莖對生し高さ四五尺夏秋の間穗を列し小き紫花を開く紫一枝の花に似て密なり一種二尺許にして花ゆるものあり一種白花の物あり俗に青葉藿香と云ハ非也根に頻多し長き共すゆる莖葉良香ゆる本經逢原に云以排草葉爲藿香と云ハ舶來の理し藿香ハかとしたり

の葉ありて先輩云へり

白花の物

特1
278

逆迭香
まん祢んろら

荷蘭より種仮りに多し四時不凋苗葉硬くして小さ木の如し葉細長かして光澤ある花ハ蔓荊ニ似て小く深紫色葉芦香味ハ甚る辛く蔓荊の気味ニ似たり

藿香

文政年中舶来の物

藿香

サルヒア 羅甸

青葉と呼ぶものを其まゝ安生す其形窕面方莖葉ハ蘇葉ニ似て稍狹く鋸齒ゆゑ両対ハ形かまとりの葉ニ似たり本経逢原ニも似排草葉偽充と云莖高さ二三尺枝多く葉芳香あり

比物時珍の説ニ符合ハ和産多くものあり

薫草 零陵香

又黄もぎと出真の零陵香ハ和産詳ク知れた舶来ニ於ケル
むきりすの零陵香と呼ぶもの
節秘荒本草ニ載る草 零
陵香ハもぎんさハ此一種なり下
総國分臺及ひ中山邊ニ自生
何ッ宿根ナリ生ハ葉ハ首ニ宿
ニ似て細長く花ハ穂をなして小黄
花を開く形ハ小豆の花ニ似て小く
実ハ蘿蔔の子ニ似たり葉の
味ひ辛く根黄白色細長ナリ

もぎんさ

メリロテエス羅甸

特1
278

又舶來の零陵香の品に豆の葉樣と呼ぶものあり
此きんれいくわとをえらぶ說あり此は房州清澄山に生
葉の形枇杷に似て光澤あり五瓣の黃の花を開
テ小円子を結ぶ冬盆栽れて密の中に藏ひれり苗
葉殺郁たり香氣あり故に熱國にて常に香にて
莖葉味ひ苦く此物經興備急本草の圖に芽食に
又一種ぎんれいくわとは倍々草津及び房州に產れ
蒿根より生れ葉は雞冠に似て背紫色莖高さ
一尺餘梢に二三寸の穗をなし小さ白花を開き
後円き實を結ぶ形きんれいくわと同し葉味ひ
淡し臭氣あり

特1
278

本草圖譜卷之十二目録

芳草類

山蘭之一種	二	春蘭	ほくろ 三
秋蘭	四	澤蘭	さはわらべ 五
一種	六	馬蘭	さんぎく 七
一種	白花淡紅花	香薷	いぬ芯
石香薷	八	爵牀	いぬこうじゆ 九
假蘓	十	薄荷	めくは

山蘭 正誤 いそへんさく 和漢三才圖會

アウパトリユム
ヤポニキユム 羅甸

ひあとりさう 福山方言 山野自生多于葉尖りなり花ハ蘭草の如くにして白色なり又白ふじえがまとつふ

特1
278

一種　圓葉薄荷
積雪草　つるもくり　十二
一種　りゝ花ん志そ
水蘓　ほうぶくもり
石薺薴　十五
石薄荷　伊吹志やうまう　十一
蘓　のゝ志　十三
一種　あを志そ　十四
薺薴　志く法

本草圖譜卷之十二

東都　岩崎常正　著

芳草類

特1
278

山蘭一種

圓葉の物なり近年薩州より来る葉の形續断に似て厚く光澤あり圓葉對生し高さ一尺餘茎紫色香氣あり花は山蘭の如く微し紅色なり

春蘭 正誤 かくろ
處々山中にあり葉は麥門冬に似て硬く春花を開く一茎一花形建蘭の如く根ふとく灰白色なり羅願黄庭堅謂一幹一花為蘭者指此也

秋蘭
らん
正誤

秋花を開く香氣あり
根は春蘭より肥ふ漢
土より此類を集る書は
百花録解芳譜等し
多し和産も又多きこと
圖説とも別なあり
こゝに略す

一種

馬蘭 まんさく
人家多く栽雞兒腸の一種に
嫩苗微し毛茸なり秋月花なりよめ
ゐに似て紫碧色又淡紅花白花等
なり

一種
白花の物
一種
淡紅花の物

香薷
いぬ忍
和名鈔

山野に多し實より生じ
葉は荏に似て狹く尖り脊
茎高さ二三尺梢に穗をなし
小紫の花を開く一方へ曲して
長刀の形をなす故になるき
なり香薷と云芬芳佳氣
なり藥用にもへし大葉の
物は下品なり

石香薷　いしかしゆ

山中稀になり形狀香薷に
似て小く花白色なり

薄荷

めくはら

メンタヒ
ベリタ羅甸

原野の濕地に生じ方茎對生し葉圓して尖あり葉を揉ば甚く芳香あり茎高さ二三尺節の間に小さき淡紫の花を開く一種葉圓して大なるものあり此物上品なり

一種 まるだ薄荷 一種 石薄荷

集解 藤頌

伊吹もやかくさう ウイルデ テーム 和蘭

ひめくらくさりに紀列熊野の産なり形前種に似て小く圓く淡紫の花を開く香氣変方茎對生し茎直立せしして蔓の如し藤蔓なり一種蔓其物是なり

越後及江州伊吹山にあり葉の形遠志に似て對生茎細くして紅色地上に起て節より抜き下に葉味辛く氣香し夏月枯る淡紫の小花攢族して毬の如し薄荷に似て氣味辛烈なり

積雪草

つる薄荷

俗称

羽州ゑてかへようくさよりへ小児の
疳病に功あるゆへ名つく山野に多し
葉は馬蹄の如くかしらは雲頭の如き
鋸歯にして茎地上に蔓延て春紫の
花を開く形状黄芩の花に似たり
茎葉香氣薄荷に似たり

一種

一種

水蘇 ゆうぐうとり

作州方言土人此草を採婦人の乳の腫へ傅て
功ゆうしと云
田野に多し實より生ひ葉は香薷に似て小く
方茎對生高さ一尺余穗の形紫蘇に似て小く花
白色にして微紅紫色を帶ふ微香氣ゆう味辛し
時珍の說に似蘇好生水旁と云又水蘇薺蓴
一類二種爾水蘇氣香薺蓴氣臭為異と云
是なり

薺蓴 ゑくさ 江戸

田野に多し形水蘇に似て葉稍
大く微毛ゆうて圓く鋸齒淺く枝幹
も全く蘇に似て高さ三尺許り花穗又
紫蘇に似て瘠小く淡紫色なり
集解の說に符合せ味し辛く稍
臭氣ゆう

特1
278

山草類
芳草類

5-12

2-3-2